

# 民活事業報告書（平成30年度）

事業名：多摩地域ユース・プラザ運営等事業

教育庁地域教育支援部

## 第1 事業概要

旧東京都立八王子高陵高等学校(以下「学校施設」という。)を改修・整備して運営を行ってきた多摩地域ユース・プラザ整備等事業の終了に伴い、引き続き多摩地域ユース・プラザとして、文化・学習施設、スポーツ施設、野外活動施設、宿泊施設等から構成される施設(以下「本件施設」という。)の一体的な運営を行う。

- 1 所在地  
東京都八王子市川町55番地
- 2 事業内容
  - (1) 施設の運営
    - ア 文化・学習施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務
    - イ スポーツ施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務
    - ウ 野外活動施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務
    - エ 宿泊施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務
    - オ 社会教育業務（講座・体験活動・交流等）の実施
    - カ 青少年の活動に関する相談への対応並びに情報の収集及び提供
    - キ 利用者に対する飲食の提供及び物品の販売
    - ク 文化・スポーツ教室の主催等及び施設を有効利用する観点から行う各種の事業
    - ケ 施設の利用促進を図るために必要となる営業及び広報活動
  - (2) 施設の維持管理  
建築物保守管理業務ほか施設の維持管理のために必要な一切の業務
- 3 事業期間  
運営を開始した日から10年間とする。  
○方式とし、事業期間終了時に都に本件施設等を返還する。

## 第2 事業評価

- 1 利用実績
  - (1) 宿泊利用実績
    - ア 宿泊室

利用実績						事業者提案	
平成30年度		平成29年度		増減		利用者数	利用率
a 利用者数	利用率	b 利用者数	利用率	a-b	(a-b)/b		
33,739人	46.9%	33,612人	46.7%	127人	0.4%	33,800人	47%

※ 利用率は、(利用者数)を(定員204人×営業日数)で除した割合

イ テントサイト

平成30年度		平成29年度		増減		利用者数	利用率
a 利用者数	利用率	b 利用者数	利用率	a-b	(a-b)/b		
1,159人	3.3%	888人	2.5%	271人	30.5%		

※ 利用率は、(利用者数)を(定員100人×営業日数)で除した割合

## (2) 活動施設利用実績

利用実績			
平成30年度 (a 利用者数)	平成29年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
99,781人	100,090人	△309人	△0.3%

## (3) その他日帰り利用実績

平成30年度 (a 利用者数)	平成29年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
18,872人	22,651人	△3,779人	△16.7%

## (4) レストラン利用実績

平成30年度 (a 利用者数)	平成29年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
131,195人	133,190人	△1,195人	△1.5%

## (5) 利用料金等収入実績

(金額：千円)

種別	平成30年度 (a 金額)	平成29年度 (b 金額)	増減		事業者提案
			a-b	(a-b)/b	
利用料金	128,646	128,491	155	0.1%	
その他	10,068	10,995	△927	△8.4%	
合計	138,714	139,486	△772	△0.6%	148,698

※ 利用料金には、備品、活動支援プログラム及び社会教育事業参加費を含む。

※ その他には、売店、自動販売機等を含む。

## 2. モニタリング

## (1) 業務履行確認

## ア 履行確認の考え方

都は、事業者が本件契約において定められた公共サービスを提供することを条件として、サービス購入料を支払い、建物及び土地の無償での利用を認める。そこで、都は、都の要求水準が満足されているか否かについて、履行確認を行う。

## イ 業務履行確認の方法等

別紙1のとおり

## (2) 財務状況等の監視

都による京王ユース・プラザ（株）（以下「SPC」という。）の財務状況等の監視については、本件事業契約上の規定により、事業期間の終了に至るまで、各事業年度の最終日から90日以内に公認会計士の監査済財務書類を都に提出し、かつ、協議会において都に対して監査報告を行うこととしている。

平成30年度分監査報告については、令和元年6月19日の協議会において報告を受け、公認会計士による監査済みであることを確認した。

第3 SPCの経営状況

損益計算書

(平成30年 4月 1日から  
平成31年 3月31日まで)

科 目	金 額	
	千円	千円
営業収益		507,877
営業費用		469,791
売上総利益		38,085
一般管理費		13,535
営業利益		24,549
営業外収益		
受取利息	1,014	
雑収入	4,123	5,137
営業外費用		
雑支出	3	3
経常利益		29,683
特別利益		
固定資産受贈益	0	0
税引前当期純利益		29,683
法人税、住民税及び事業税		10,580
法人税等調整額		△ 389
当期純利益		19,493

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

# 貸借対照表

(平成31年 3月31日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流 動 資 産	773,924	流 動 負 債	155,934
現 金 及 び 預 金	2,743	未 払 金	139,416
運 用 預 け 金	657,325	未 払 消 費 税 等	1,982
未 収 入 金	107,868	未 払 法 人 税 等	5,104
未 収 消 費 税 等	0	前 受 金	3,415
商 品	693	預 り 金	5,775
貯 蔵 品	1,413	前 受 収 益	240
前 払 費 用	3,747		
繰 延 税 金 資 産	0		
そ の 他 の 流 動 資 産	132		
固 定 資 産	64,303		
有 形 固 定 資 産	15,717	負 債 の 部 合 計	155,934
構 築 物	3,598		
工 具 器 具 備 品	12,119		
無 形 固 定 資 産	28	(純 資 産 の 部)	
ソ フ ト ウ ェ ア	28	株 主 資 本	682,293
投 資 そ の 他 の 資 産	48,558	資 本 金	50,000
長 期 前 払 費 用	0	資 本 剰 余 金	50,000
繰 延 税 金 資 産	3,538	資 本 準 備 金	50,000
長 期 差 入 保 証 金	45,020	利 益 剰 余 金	582,293
		そ の 他 利 益 剰 余 金	582,293
		繰 越 利 益 剰 余 金	582,293
		純 資 産 の 部 合 計	682,293
資 産 の 部 合 計	838,228	負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	838,228

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

## 第4 総合評価

### 1 利用実績

平成30年度は多摩地域ユース・プラザ運営等事業の4年目となり、新たな活動プログラムの提供やイベントの開催、大規模空調更新工事を実施したほか、交通広告をはじめとした様々な広告媒体を活用して広報活動を行った。

学校団体や青少年団体などによる利用が中心ではあったものの、全体的に利用者数が前年実績よりやや下回った。宿泊利用実績と活動施設利用実績については以下のとおりである。

宿泊室利用実績は、平成30年度の実績としては、前年度比で127人増の33,739人であったが、事業者提案時の計画33,800人を61人下回る実績となった。

活動施設利用実績は、交通広告をはじめとした広報活動の充実による新規利用者の取り込み等を図ったものの、前年度比で309人減の99,781人となった。

平成31年度は、利用者層の統計分析を進めるとともに、新たな利用者の開拓に向け、引き続き努力するようSPCに働き掛けを行っていく。

### 2 業務の履行状況

運営業務については、前年度に引き続き、活動室などの施設提供業務をはじめ、SPCのノウハウを活用した効果的・効率的な履行がなされた。

ユース・スクエア事業については、活動団体の発表の場や青少年のボランティアの活動の場としてニーズが高まりつつあり、活動プログラムについても前年度にも増して内容の充実を図るなど、利用者の多様なニーズに応える努力もなされた。

社会教育事業についても、野外活動型施設の特長を生かし、利用者魅力のある事業が実施されている。公共性・社会性や都の施策、施設を訪れる青少年等の傾向・特徴等を踏まえた上で、多角的ニーズに応える、より現実や実態に即した事業とするため、今後も、教育庁の専門職員（社会教育主事）によるSPCに対する助言を行っていく。

### 3 経営状況

SPCの経営状況は、損益計算書によると、当期純利益は19,493千円であった。事業者提案時の計画における当期利益8,711千円を上回っている。

また、貸借対照表によると、負債の合計が155,934千円であった。流動資産は773,924千円であり、流動負債155,934千円を大きく上回っていることから、資金繰りについても健全なものであったと認められる。

以上のことから、平成31年3月末の時点においてSPCの経営状況は健全なものと認める。

## 業務履行確認の方法等

	方 法	回 数	指 標
業務の履行確認	書類（業務報告書）による確認  計画どおりに業務を行っていることを確認した。 ※ 提出時にヒアリングを実施した。	12回 (月1回)	年間業務計画  ※ 年間業務計画は、業務要求水準、事業者提案、事業契約、その他確認事項に基づき前年度に作成し、都が確認する。
施設の運営及び維持管理状況の確認	現地立入確認 ヒアリング 日報等記録の確認 施設の視察  業務要求水準等に基づき適正に運営・維持管理されていることを確認した。	4回  (1)H30.7 (2)H30.10 (3)H31.1 (4)H31.4	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
利用者モニタリング	利用者アンケート  事業者が行っているアンケートの内容及び対応をヒアリング確認することにより、利用者からの指摘及びその対応について確認した。	4回  (1)H30.7 (2)H30.10 (3)H31.1 (4)H31.4	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
	利用者懇談会  事業者が開催する利用者懇談会の記録の確認により、利用者からの指摘及びその対応について確認した。	5回 (H31.1～2)	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
社会教育事業履行確認	書類（業務報告書）による確認  事業が計画どおりに実施されていることを確認した。	12回 (月1回)	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画及びモニタリング事項 社会教育事業等企画委員会における協議事項等

## 経営成績について

京王ユース・プラザ株式会社

「高尾の森わくわくビレッジ」は開業から14年目となり、施設が陳腐化しないように、より一層お客様に対して魅力あるサービス提供と安全で安心して御利用いただける施設提供を目指し、新たな活動プログラムの提供やイベント開催、お客様からの御意見に対する迅速な対応、施設の修繕や改修など顧客満足度の向上に努めてまいりました。また、交通広告をはじめとした様々な広告媒体を活用して広報活動を行い、施設利用者数の増加に努めました。その他、東京都教育委員会との「社会教育事業」の共催、セブン-イレブン記念財団が運営する「高尾の森自然学校」との共催イベントの実施等、施設内だけでなく、近隣施設や地域団体等との連携によるプログラムを強化しました。

施設の利用状況につきましては、学校団体や青少年団体などを中心に御利用いただきましたが、年間の宿泊者数につきましてはほぼ前年と同数の33千人となりました。活動施設の利用者数につきましては、前年をやや下回る99千人となりました。

収支状況に関しましては、営業収益が対前年4百万円増の507百万円、営業費用は対前年6百万円増の469百万円となりました。

以上の結果、経常利益は対前年1百万円減の29百万円、当期純利益は対前年1百万円減の19百万円となりました。

## 損益計算書について

京王ユース・プラザ株式会社

営業収益は、対前年 4,389 千円増の 507,877 千円を計上しました。増減内訳は、東京都からのサービス購入料が企業物価指数の上昇により改定となり、5,162 千円の増となりました。また、現地収入が利用者減による付帯施設収入の減等により 772 千円の減となりました。

営業費用は、対前年 6,218 千円増の 469,791 千円を計上しました。主な支出内容は売上原価、修繕費、業務委託費、販売広告費、水道光熱費等で、増減内訳は緊急修繕による修繕費 5,988 千円の増、台風被害による森林伐採作業等による手数料 3,727 千円の増、備用品費 1,988 千円の増、営業関連委託費 1,869 千円の増、売上原価 5,590 千円の減等によるものです。

一般管理費は、対前年とほぼ同じ 13,535 千円を計上しました。主な支出内容は役員報酬、業務委託費等です。業務委託費は主に京王アカウンティングへの経理業務委託費です。

その結果、営業利益は 24,549 千円となりました。

営業外収益は 5,137 千円で、受取利息の他、NTT ドコモ・ソフトバンクのアンテナ設置料等を計上しております。

営業外費用は 3 千円です。

以上の結果、経常利益は 29,683 千円となりました。

特別利益の計上はありませんでした。

特別損失は固定資産除却損 3 円を計上しております。

その結果、税引前当期純利益は 29,683 千円となりました。

法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額を差し引いた当期純利益は 19,493 千円となりました。



## 貸借対照表について

京王ユース・プラザ株式会社

当期末の総資産は、838百万円となりました。前期末と比較して、44百万円の増加となっております。増減の主なものは、資産の部で運用預け金が49百万円の増加、負債の部で未払金が24百万円の増加、純資産の部で当期純利益の計上により繰越利益剰余金が19百万円の増加です。

各科目の主な内容は、以下のとおりです。

流動資産は、対前年45百万円増の773百万円となりました。

現金及び預金は、ほとんどがお客様から預かっている予約金です。

運用預け金は、余剰資金を京王電鉄グループ内キャッシュマネジメントシステムで資金運用をしております。損益計算書の営業外収益・受取利息はこの資金運用によるものです。

未収入金は、第4四半期分サービス購入料等です。

商品は売店の商品です。

貯蔵品は、パンフレットや収入印紙等です。

前払費用は火災・傷害保険料の翌年度分等です。

固定資産は、対前年1百万円減の64百万円となりました。

このうち、投資その他の資産-長期差入保証金45百万円は、東京都への契約保証金です。

繰延税金資産は、未払事業税、事業所税および一括償却資産相当分です。

以上により、資産の部は対前年44百万円増の838百万円になりました。

次に、負債の部は対前年25百万円増の155百万円となりました。

未払金は主に京王電鉄への業務委託料等の未払分です。

前受金は、お客様から預かっている予約金です。

預り金は、館内レストラン（レストラン京王）の売上金です。

前受収益は、翌年度分のアンテナ設置料等です。

最後に純資産の部ですが、資本金、資本剰余金は増減なく、利益剰余金に当期純利益 19 百万円を加算した結果、純資産の部は対前年 19 百万円増の 682 百万円になりました。